

朝倉工業団地遺跡群No.6

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

2013.9

前橋市教育委員会
恵産業株式会社
有限会社毛野考古学研究所

朝倉工業団地遺跡群No.6

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

朝倉工業団地遺跡群

2013.9

前橋市教育委員会
恵産業株式会社
有限会社毛野考古学研究所

例　　言

- 1 本書は、恵産業株式会社の本社・倉庫新築工事に伴い実施した朝倉工業団地遺跡群No.6の埋蔵文化財発掘調査報告書である。
- 2 調査は、前橋市教育委員会の指導・監督のもとに、恵産業株式会社の委託を受け、有限会社毛野考古学研究所が実施した。調査担当者は、同研究所所長井正欣、井上 太、小此木真理である。
- 3 発掘調査・整理作業の実施期間は、平成25年5月20日～平成25年9月30日である。
- 4 本調査の調査区の地番、面積及び遺跡番号、並びに略称は下記のとおりである。

所在地地番：前橋市下佐鳥町1003番2	面積：652m ²
遺跡番号：00805	略称：24G79
- 5 本調査の遺構測量は、小出拓磨（有限会社毛野考古学研究所員）が担当した。
- 6 本書の編集は有限会社毛野考古学研究所が行い、小此木が担当した。
- 7 本書の執筆は、Iを福田貴之（前橋市教育委員会）、その他を小此木が担当した。
- 8 調査に関わる資料は一括して前橋市教育委員会文化財保護課が保管している。
- 9 発掘調査・整理作業に関わった方々は下記のとおりである。（五十音順、敬称略。）

[発掘調査]	井口ヒロ子	狩野友好	齋藤清一	志村久子	高橋道敏	竹中美保子	竹生正明
	勤使川原幸枝	永井達史	森山恵子	森山孝男	山本良太		
[整理作業]	磯 洋子	小野沢絹子	樺沢美枝	合田幸子	下條真美代	竹中美保子	
- 10 発掘調査の実施から報告書刊行に至る間、下記の機関からご指導・ご協力を賜った。記して感謝を申し上げる。（順不同・敬称略）

J T空撮　山下工業株式会社

凡　　例

- 1 掘図の座標北には、世界測地系（国家座標第IX系）を使用した。方位記号は座標北を示す。
- 2 等高線や断面図における水準値は、海拔標高を示す（単位：m）。
- 3 掲載の遺構図及び遺物実測図の縮尺率は、各掘図中にスケールで表示した。
- 4 グリッドは、原点（X=39,500・Y=-66,900）より西から東へX0、X1…、北から南へY0、Y1…と付した。
- 5 遺構断面図及び遺物観察表に示した色調は『新版標準土色帖』（農林水産省農林水産技術会事務局・財團法人日本色彩研究所監修）を使用した。
- 6 本書中のテフラ（火山噴出物）の呼称は、下記のとおりである。

A s - A :	1783年（天明3年）に噴出した浅間Aテフラ。
A s - B :	1108年（天仁元年）に噴出した浅間Bテフラ。
H r - F A :	6世紀初頭に噴出した榛名ニツ岳渋川テフラ。
H r - F A 層	については、現地調査の段階でHr - FAの均一な堆積が認められず、一次降下灰と降下後の洪水層との明確な判別ができなかったため、その2つを総称してHr - FAとする。
A s - C :	3世紀末～4世紀初頭に噴出した浅間Cテフラ。
- 7 本書掲載第1図には、国土交通省国土地理院発行の1/200,000「長野」「宇都宮」、第2図に同院発行の1/25,000地勢図「前橋」「高崎」、第3図には「前橋市都市計画図」1/2,500を一部加工して使用した。
- 8 表紙には、『昭和61年航空写真集前橋市全域』の空中写真を使用した。
- 9 遺構略称は、W…溝、D…土坑、I…井戸、P…ピットである。

目 次

例言・凡例	IV 遺跡の概要 5
目次	1 遺構・遺物の概要 5
挿図目次・表目次・写真図版目次	2 基本層序 5
	V 検出遺構 6
I 調査に至る経緯 1	1 平安時代末期～中世以降 6
II 遺跡の位置と環境 1	2 古墳時代～平安時代 12
1 地理的環境 1	VI 出土遺物 17
2 歴史的環境 2	VII まとめ 17
III 調査の方法と経過 4	写真図版
1 調査の方法 4	抄録
2 調査の経過 5	

挿図目次

第1図 遺跡の位置 1	第8図 4区 W-5・9～11・18号溝 11
第2図 周辺の遺跡 3	第9図 I-1号井戸、D-2・3号土坑 12
第3図 調査区配置図 4	第10図 調査区全体図（古墳時代～平安時代） 15
第4図 基本層序図 5	第11図 Hr-F A層下水田跡（3区）
第5図 A s-B層下水田跡 8	W-1・2・4～8・14・15号溝、 畝状遺構 16
第6図 調査区全体図（平安時代末期～中世以降） 9	第12図 出土遺物実測図 17
第7図 W-5・16・17号溝、D-1号土坑 10	第13図 朝倉工業団地遺跡群における 古墳時代の水田跡確認範囲 18

表 目 次

第1表 周辺の遺跡一覧表 2	第3表 出土遺物観察表 17
第2表 A s-B層下水田計測表 8	

写真図版目次

A s-B層下水田跡 畦畔検出作業	W-9号溝 全景(東から)
P L. 1	W-11号溝 全景(東から)
調査地と端気川(南西から)	W-18号溝 全景(東から)
調査区全景(左が北)	2・3区 全景(左が北)
P L. 2	P L. 4
A s-B層下水田跡 全景(2・3区、手前が北)	Hr-F A層下水田跡 全景(南西から)
A s-B層下水田跡 区画①～④(東から)	Hr-F A層下水田跡 全景(南から)
A s-B層下水田跡 区画①②間の水口(南西から)	W-8号溝 全景(西から)
A s-B層下水田跡 畦畔2 土層断面(西から)	W-8号溝 土層断面 B-B'(東から)
A s-B層下水田跡 畦畔4 土層断面(西から)	W-3号溝 全景(西から)
P L. 3	畝状遺構(北から)
4区 全景(左下が北)	出土遺物
I-1号井戸、D-3号土坑(東から)	

I 調査に至る経緯

朝倉工業団地は平成23年1月の試掘調査により遺跡地であることが確認されている。その後、道路箇所については記録保存を目的とした発掘調査を実施した。各々の区内については進出する各社と協議を行ない現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることとなった。

平成25年2月14日、恵産業株式会社より埋蔵文化財の取り扱いについて問合せがあった。以降、調査期間や調査の方法について数回に亘り協議を行なった。その結果、現状保存が不可能な箇所については発掘調査を行ない記録保存の措置を執ることで合意を得た。発掘調査については、「群馬県内の記録保存を目的とする埋蔵文化財の発掘調査における民間調査組織導入事務取扱要綱」に則り、前橋市教育委員会の作成する調査仕様書に基づく監理・指導の下、民間調査組織が行なうこととなった。平成25年5月15日付けで恵産業株式会社と民間調査組織である有限会社毛野考古学研究所との間で発掘調査業務委託契約を締結し、同年5月16日付けで恵産業株式会社、有限会社毛野考古学研究所、前橋市教育委員会との間で発掘調査に関する協定書が締結され、同年5月20日から現地調査が開始された。

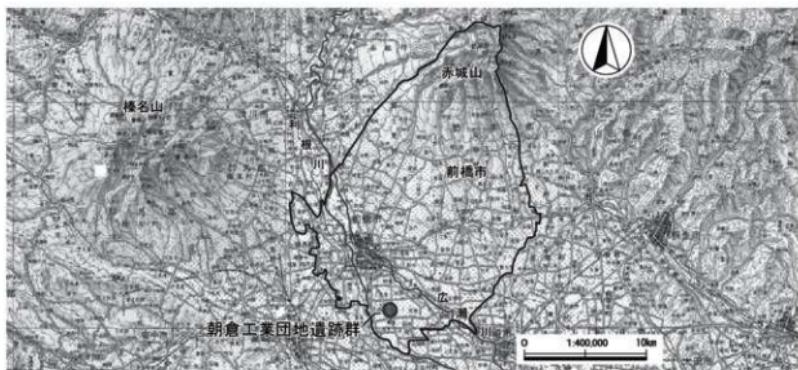
II 遺跡の位置と環境

1 地理的環境

本遺跡群は、群馬県前橋市の南端に位置し、北西には榛名山、北東には赤城山を望むことができる。約2km西側には利根川が北西から南東方向に流れ、東側には広瀬川や桃ノ木川をはじめとする多くの河川が、流下している。

遺跡が立地する前橋台地は、約2万年前の浅間山噴火を起源とする山体崩壊にともなう「前橋泥流」によって形成された。この泥流は榛名山と赤城山間を抜け関東平野に流出する部分に広がって堆積し、扇状地性台地となつた。台地上には、その後の河川の影響によって多くの自然堤防と後背湿地が形成されている。

本遺跡群の位置する下佐鳥町周辺にも、端気川や藤川といった小河川の影響で、自然堤防と後背湿地が形成されており、現在は東側に広大な水田地帯が広がっている。また、端気川は前橋台地北部の湿地帯に起源をもつ自然流路で、その起源は古墳時代にまでさかのぼり、水田開発に利用されてきたと考えられている。



第1図 遺跡の位置

2 歷史的環境

本遺跡周辺には繩文・弥生時代の遺跡は少なく、櫛島川端遺跡(21)、徳丸仲田遺跡(57)で弥生時代後期の住居跡や遺物が確認されている。

古墳時代になると遺跡数が増加し、多数の集落が自然堤防や微高地に立地する。前期は、公田池尻遺跡(27)、徳丸仲田遺跡(57)等で確認され、横手早稲田遺跡(36)・横手湯田遺跡(43)では周溝状の排水施設を伴う住居跡が構築されている。中期は横手早稲田遺跡・横手湯田遺跡、後期は公田東遺跡(23)、下佐鳥遺跡(24)、川曲遺跡(25)、公田池尻遺跡(27)で確認されている。前期の集落は後期になると水田耕作地として利用されるような地域にも営まれ、中期になると集落は減少する。そして後期になるとふたたび増加する状況がみられる。

後背湿地では、火山灰や洪水堆積物を鍵層として、様々な時期の水田跡や畠跡が調査されている。弥生後期～古墳前期ではA s-C層下水田跡、4世紀初頭以降のA s-C混入層下水田跡、後期では6世紀初頭のH r-F A層下水田跡やH r-F A泥流層下水田跡が、南部拠点遺跡群(44・58・60～63)等で確認されている。また水田の開発に伴って徳丸仲田II遺跡(57)では前期に開削された堰を伴った大規模な用水路が発見され、この水路は下流の砂町遺跡まで約2kmにわたり、維続する可能性が指摘されている。

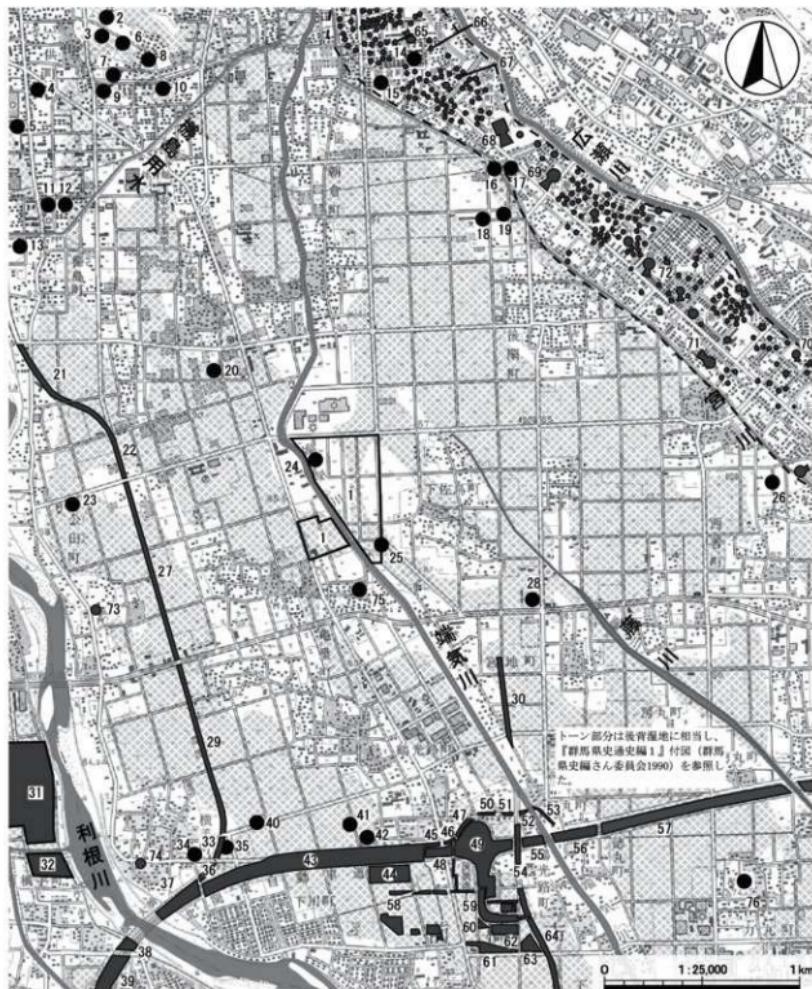
これらの集落や生産活動に関わる有力者層の墳墓群として、広瀬川右岸に朝倉・広瀬古墳群が存在している。この古墳群は4～7世紀にかけての県内最大級の古墳群で、昭和10年に行われた県下一斎古墳調査では、154基の古墳が確認されている。相川考古館に収蔵されている国指定重要文化財の彈琴男子像埴輪は、同古墳群からの出土と想定されている。

奈良・平安時代には集落は引き続き微高地に占地し、公田東遺跡、公田池尻遺跡、西田遺跡(49)、西田II遺跡(50)、西田VI遺跡(51)等で確認されている。

後背湿地では、天仁元(1108)年に浅間山の噴火で埋没したA s-B 層下水田跡が、南部拠点遺跡群(44, 58, 60 ~ 63)等多くの遺跡で確認されている。これらの水田は一町約109 m四方のいわゆる「条里地割」に沿つたものが多いことが明らかになっている。

中近世には、微高地上に環濠遺跡群が多数確認される。周辺では那波郡を支配する那波氏の居城である丸之城(76)、宿阿内城(75)があり、他にも当該期の館跡や掘立柱建物跡、井戸跡などの遺構が確認されている。

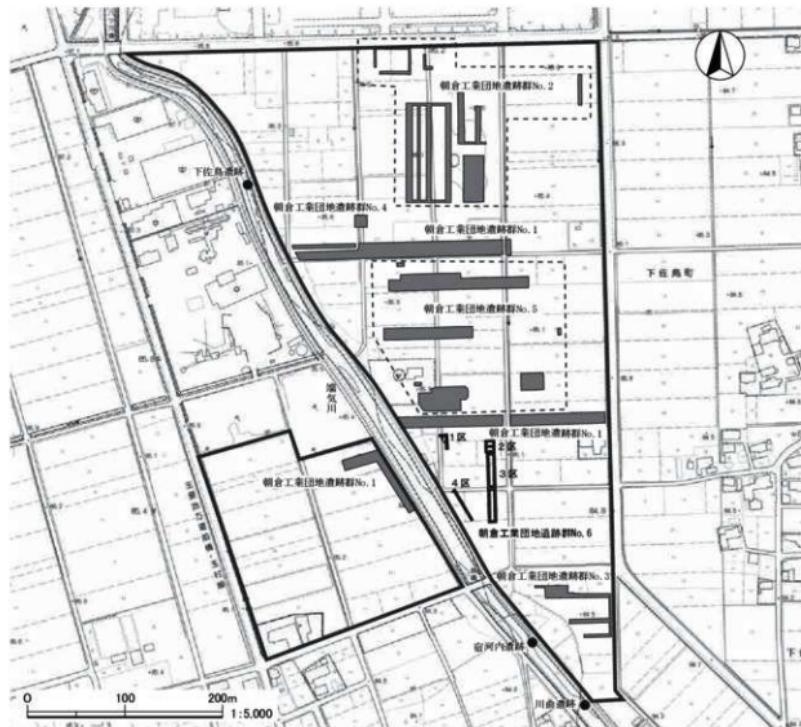
第1表 周辺の遺跡一覧表（福田・和久、2012より）



(福田・和久 2012 を一部改編)

1 新倉工業団地遺跡群	12 東京安寺	23 公田東(調査会)	34 井戸南	45 村中Ⅱ	56 徳丸高塚・同Ⅱ	67 朝倉3号墳
2 六供下安寺	13 櫛島川端Ⅱ	24 下依鳥	35 横手宮田Ⅱ	46 西田Ⅴ	57 猪大株田・同Ⅲ~IV	68 八幡山古墳
3 六供下堂木V	14 長山	25 川曲	36 横手早船田	47 西田Ⅲ	58 同上(区割割合%)3	69 天神山古墳
4 六供中京安寺	15 織守通り	26 西善鍛冶屋	37 横手南川端	48 村中	59 下阿内町畠	70 龍塚山古墳
5 中大門	16 後閑園地	27 公田池尻	38 西横手道跡群	49 西田	60 同上(区割割合%)6	71 上原二子山塚
6 六供下堂木II	17 紙山	28 斎田	39 宿橋下三段川	50 西田Ⅱ	61 同上(区割割合%)1	72 大星敷古墳
7 六供下堂木Ⅲ	18 後閑	29 亀里平塚	40 亀里鉢面・同Ⅱ	51 西田VI	62 同上(区割割合%)5	73 下川瀬3号墳
8 六供下堂木I	19 後閑Ⅱ	30 宮地中田	41 亀里油路Ⅱ	52 鶴光路模様Ⅱ	63 同上(区割割合%)2	74 洗闘神社古墳
9 六供下堂木IV	20 上佐島中原前・同Ⅱ	31 西横手道跡群Ⅰ	42 鶴光路模様Ⅰ	53 徳丸高塚Ⅲ・同IV	64 下阿内前田	75 犬阿内城
10 六供跡群	21 櫛島川端(浮遊Ⅱ)	32 西横手道跡群Ⅱ	43 併用面・同Ⅱ~V	54 西田・西田Ⅳ	65 朝倉2号墳	76 力丸城
11 南京安寺	22 公田東(事業団)	33 横手宮田	44 朝倉山古墳群Ⅳ	55 鶴光路模様	66 朝倉1号墳	

第2図 周辺の遺跡



第3図 調査区位置図

III 調査の方法と経過

1 調査の方法

今回の発掘調査は、構造物の基礎部分に該当する 652 m²が対象である。調査区は 1 区から 4 区を設定し、主な調査対象は A s - B 層下の水田跡と、H r - F A 層下の水田跡等であり、一部の調査区は 2 面に及ぶ調査となつた。調査面積は、1 面目 (A s - B 層下) が 86.1 m²、2 面目 (H r - F A 層下) が 565.9 m²、合計 652 m²である。1 面目の調査区では表土から A s - B 層の上部までをバックホーで掘削し、その後は人力で遺構の検出にあたつた。2 面目の調査区では、1 面目の調査区以外は表土層から H r - F A 層上部までをバックホーで掘削し、その後は人力で遺構の精査にあたつた。

検出された遺構は、時代などに関わらず検出順、種類毎に記号番号を付した。また調査区をまたがっていても同一遺構と確認した場合は、同じ遺構番号とした。本書では調査時の遺構番号をそのまま使用している。遺構・遺物の精査後は写真撮影、測量図面等の記録を作成した。写真撮影は、遺構検出終了後に全体の空中写真撮影を実施し、個別遺構は 35 mm モノクロフィルム及びリバーサルフィルムとデジタルカメラで撮影した。遺構測量は、平面図はトータルステーションを用いて作成し、断面図は手実測で 1/20 縮尺で実施した。

2 調査の経過

平成25年

- 5月20日 ブレハブ・簡易トイレ、発掘機材の搬入。重機による表土掘削の開始。
- 5月22日～24日 A s-B下調査面（2・3区）の遺構検出作業の実施。
- 5月27日 A s-B下水田面の写真撮影。平面測量の実施。土層断面図の作成。
- 6月4日～7日 H r-F A下調査面（1～4区）の遺構検出作業の開始。
- 6月11日 調査区全体の空中写真撮影業務と平面測量の実施。土層断面図の作成。写真撮影。撤収作業。
- 6月14日 現地にて前橋市教育委員会文化財保護課による完了検査。

IV 遺跡の概要

1 遺構・遺物の概要

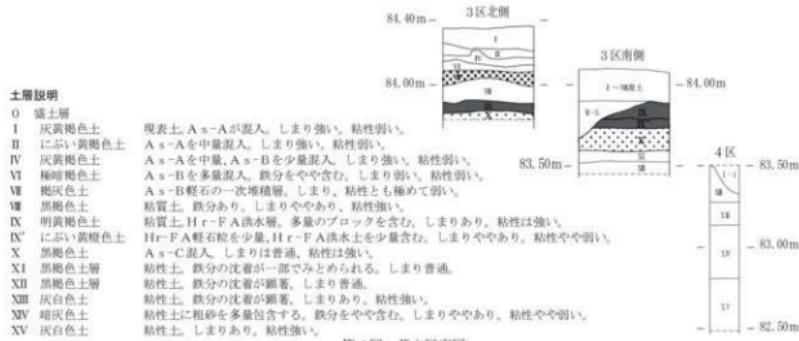
検出された遺構は、中世以降の溝跡7条、井戸跡1基、土坑3基、平安時代末期のA s-B層直下の水田跡（2～3区）、古墳時代のH r-F A層下の水田跡（3区）、歓状遺構1条（4区）、古墳時代～平安時代の溝跡13条、ピット34基である。

1面目の調査ではA s-B層下の遺構確認を目的とし、水田跡を確認した。この水田跡はA s-B層に覆われ、畔が良好に遺存していた。2面目の調査はH r-F A層下の遺構確認を目的とし、古墳時代の水田跡や溝跡、同時に中世以降と推定される溝等の遺構を本確認面で調査している。

調査区で出土した遺物は少量で遺物収納箱1箱程度である。明確に遺構に伴い、器種や時期を判断できる遺物は数点である。遺物は主に3区と4区の溝跡から出土した。

2 基本層序

基本層序は朝倉工業団地遺跡群No.1に準拠した。ただし、調査区によって削平や擾乱の影響が大きく、土層の堆積状況は多様であった。2区から3区中央部にかけてはA s-B輕石の一次堆積層であるVII層が良好に残存していたが、1区、3区南側、4区では認められなかった。1区と4区ではH r-F A層であるIX層が削平されており、X層の上層にIX層とその上層が搅拌された土が堆積し、部分的にH r-F A洪水土層が残存していた。また、3区と4区の一部では、IX層と想定される層の下にもう一層H r-F A洪水土を含む層が確認され、これをIX'層とした。XII層以下は、3区・4区の堀跡及び井戸跡の掘方で確認された基本土層である。



第4図 基本層序図

V 検出遺構

1 平安時代末期～中世以降

2区から3区中央部で確認したA s-B層は軽石の一次堆積とみられ、この範囲では比較的良好な堆積が認められたが、1・4区では確認されなかった。ここでは1面目の調査で検出したA s-B層下水田跡、2面目の調査で調査した当該期の溝跡、井戸跡、土坑について記述する。

1 水田跡

A s-B層下水田跡（第5図、第2表、P L. 2）

位置：2区南端から3区北端にかけて検出された。重複：なし。残存状況：直上に厚さ約4～16cmの一次堆積とみられるA s-B軽石層が確認されている。区画：7区画が確認された。いずれも区画の一部分であるため、区画全体の規模は不明。畦畔：小畦畔のみである。幅は南北畦畔の下端幅が0.40～0.52m、東西畦畔が0.36～0.56mである。水口：畦畔1の南端が途切れており、これが水口であった可能性がある。水田面の状態：全体的になだらかで浅い凹凸がみられる。区画②では耕作痕と足跡が確認された。遺物：なし。

2 溝 跡・井戸跡・土坑

W-5号溝（遺構：第6～8図）

位置：3区及び4区の南側で部分的に検出された。重複：3区ではW-16号溝と重複し、これを切っている。形態：平面形はやや湾曲し、底面の標高は3区北東端部が約83.6m、4区西端部が約83.1mで西側が低い。断面形はおむね浅鉢状を呈する。計測値：主軸方位はN-35°～52°-E、4区ではN-71°-E、上幅0.98～1.17m、確認面からの深さ0.42～0.58mを測る。埋没状態：3区南部の搅乱部分に入る客土である褐色土により人為的に埋め戻されている。現代のビニール等が混入する。遺物：中近世の陶器、土師器片が出土している。時期：埋没状態より、近現代の溝と推測される。

W-9号溝（遺構：第6・8図）

位置：4区南側にて一部が検出された。重複：なし。形態：北東-南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおむねV字状を呈する。また、底面は平坦な状態からさらに溝状に掘り込まれる。計測値：主軸方位N-66°-E、検出長2.10m、上幅1.73～1.77m、確認面からの深さ0.95mを測る。埋没状態：主として黒褐色粘質土ブロック、H r-F A洪水土、A s-Bを含む暗褐色土により埋没している。遺物：なし。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

W-10号溝（遺構：第6・8図）

位置：4区南側にて一部が検出された。重複：なし。形態：北東-南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおむねV形状を呈する。計測値：主軸方位N-68°-E、検出長2.12m、上幅1.16～1.26m、確認面からの深さ0.71mを測る。埋没状態：主として黒褐色粘質土ブロック、H r-F A洪水土、A s-Bを含む暗褐色土により埋没している。遺物：陶器、土師器の細片が出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

W-11号溝（遺構：第6・8図 遺物：第12図、第3表、P L. 4）

位置：4区南側にて一部が検出された。重複：なし。形態：北東-南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。

断面形は浅鉢状を呈する。計測値：主軸方位N-70°-E、検出長2.14m、上幅4.20～4.31m、確認面からの深さ0.86mを測る。埋没状態：主として黒褐色粘質土ブロック、H r-F A洪水土、A s-Bを含む暗褐色土により埋没している。遺物：陶器、土師器の細片が出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

W-16号溝（遺構：第6・7図）

位置：3区南西側にて一部が検出された。重複：W-5・17号溝に切られている。形態：北西-南東及び北東-南西方向に走行する溝がほぼ直角に屈曲する。断面形は浅鉢状を呈する。計測値：上幅1.03m、確認面からの深さ0.54mを測る。埋没状態：下層は砂質土と粘質土が互層状をなす自然堆積が認められ、中層より上はH r-F A及びA s-Bを含む土によって埋没している。遺物：陶器の破片が出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

W-17号溝（遺構：第6・7図）

位置：3区南西側にて一部が検出された。重複：W-16号溝と重複し、これを切っている。形態：北西-南東及び北東-南西方向に走行する溝がほぼ直角に屈曲する。断面形は浅鉢状を呈する。計測値：上幅1.60m、確認面からの深さ0.68～0.74mを測る。埋没状態：下層は砂質土と粘質土が互層状をなす自然堆積が認められ、中層より上はH r-F A及びA s-Bを含む土によって埋没している。遺物：軟質陶器の破片が出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

W-18号溝（遺構：第6・8図）

位置：4区北側にて一部が検出された。重複：W-19号溝を切っている。形態：北東-南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむねV字状を呈する。計測値：主軸方位N-68°-E、検出長2.41m、上幅0.99～1.14m、確認面からの深さ0.97mを測る。埋没状態：主として黒褐色粘質土ブロック、H r-F A洪水土、A s-Bを含む暗褐色土により埋没している。遺物：後世の混入とみられる須恵器と陶器の細片が出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

I-1号井戸（遺構：第6・9図、P.L. 3）

位置：4区北側にて検出された。重複：D-3号土坑と重複し、これを切っている。形態：平面円形、南北に釣瓶用と想定される小ピットが検出されている。壁面は検出面から深さ約40cm付近まではゆるやかで、それ以下はほぼ垂直に掘り込まれる。深さ約70cm付近からは内側にオーバーハングする。底面形状は未発掘のため不明である。計測値：平面は東西10.4×南北1.48m、深さは掘削を行った面まで0.90mを測る。埋没状態：基本土層XII層に由来する黒褐色粘質土とX層の白色粘質土が堆積し、上部は礫によって人為的に埋め戻されている。遺物：なし。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

D-1号土坑（遺構：第6・7図）

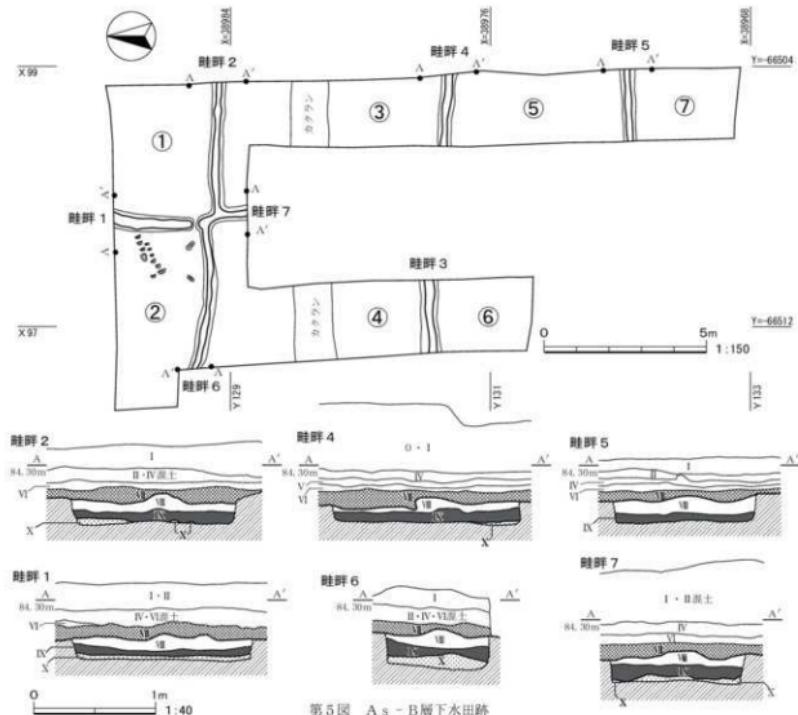
位置：3区南西側にて一部が検出された。重複：なし。形態：平面方形と推測され、断面形はおおむね逆台形状を呈する。計測値：確認した部分では、平面1.40×0.96m、深さ0.37mを測る。埋没状態：基本土層IX層に由来する灰黄褐色粘質土と黒褐色粘質土により人為的に埋め戻されているものと推測される。遺物：土師器の細片が少量出土している。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

D-2号土坑（遺構：第6・9図）

位置：4区北側にて検出された。重複：なし。形態：平面不規則形、底面はほぼ平坦で人頭大の縦8点が敷かれていた。計測値：平面 0.70×0.60 m、深さ0.10mを測る。埋没状態：敷石の直下が掘方であり、基本土層XII層に由来する黒褐色粘質土が縦の間に混入する。遺物：なし。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。

D-3号土坑（遺構：第6・9図）

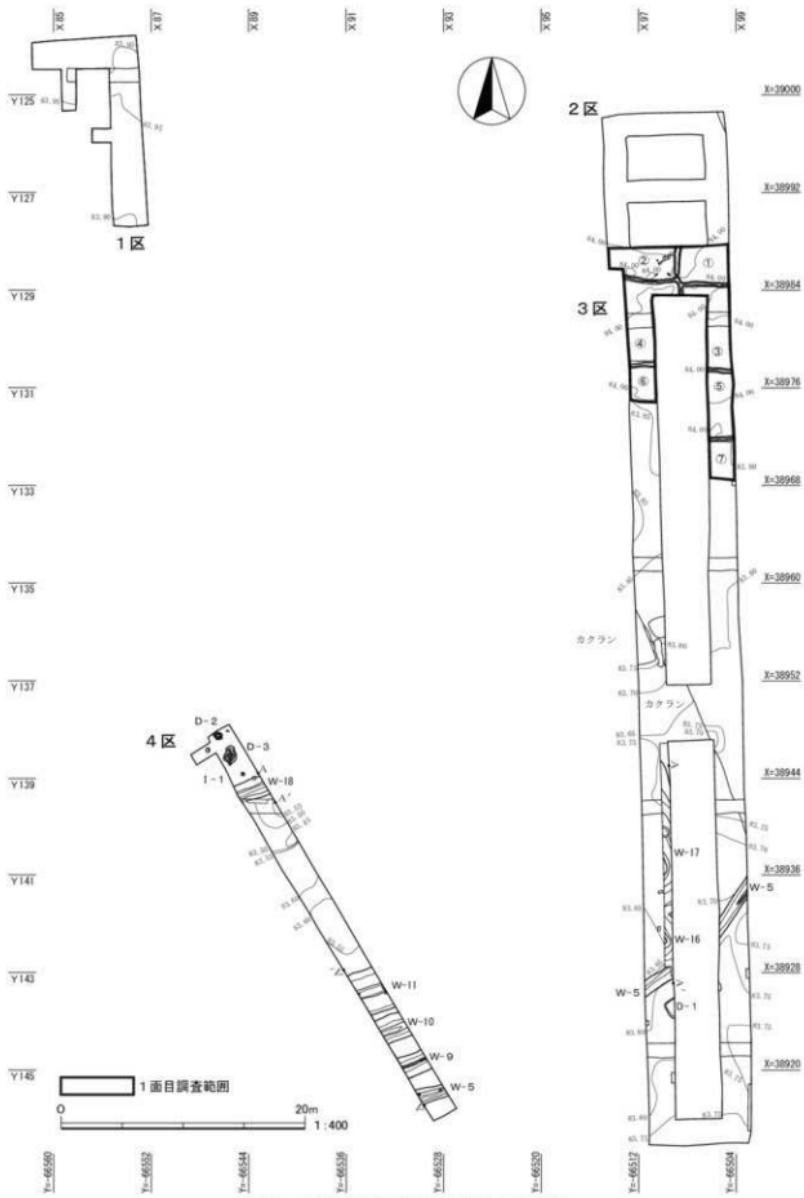
位置：4区北側にて一部が検出された。重複：I-1号井戸に切られている。形態：平面楕円形、断面形はU字状を呈する。計測値：平面 0.70×0.43 m、深さ0.33mを測る。埋没状態：主としてA-s-Bを含む基本土層VII層に由来する黒褐色粘質土とXII層以下の白色粘質土により埋没している。遺物：なし。時期：埋没状態より、中世以降と推測される。



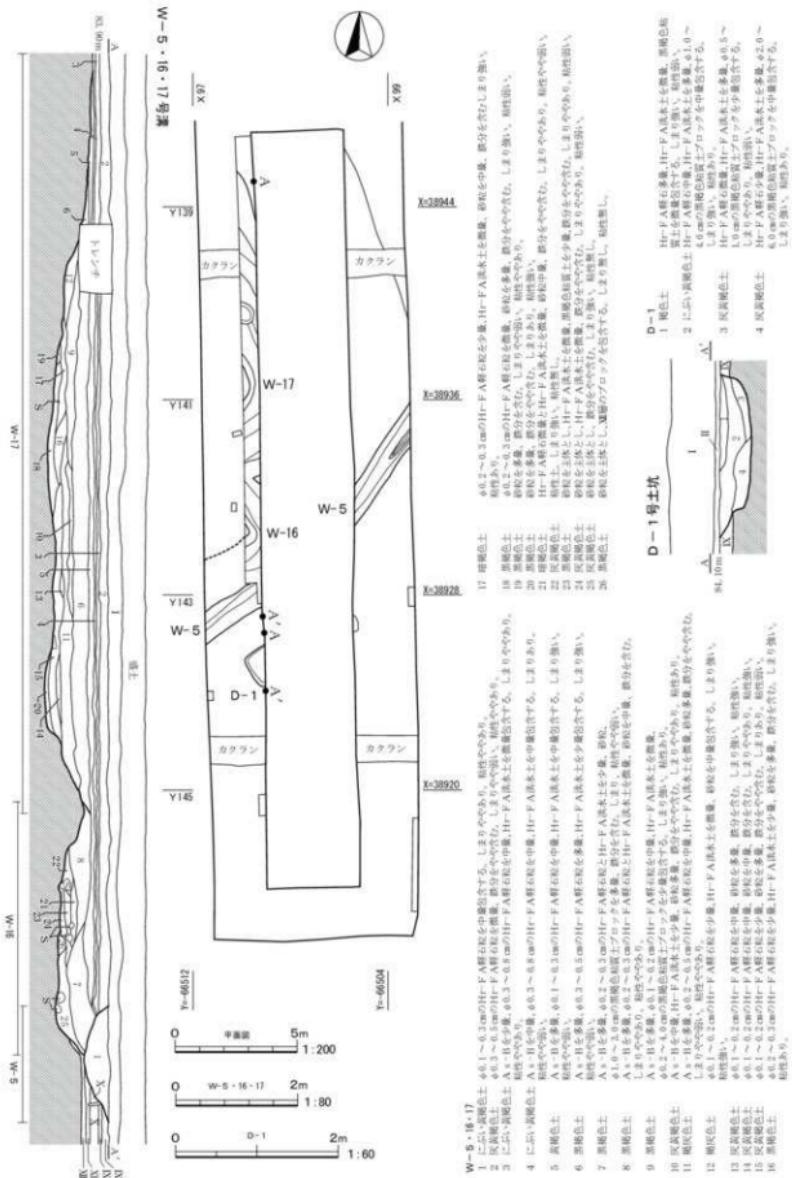
第5図 A-s-B層下水田跡

第2表 A-s-B層下水田計測表

調査区	区画No.	面積(m ²)	南北幅(m)	東西幅(m)	田面中央標高(cm)	田面比高(cm)	南北畦跡				東西畦跡			
							南北畦跡上端標高(cm)	南北畦跡下端標高(cm)	南北畦跡下端幅(cm)	東西畦跡上端標高(cm)	東西畦跡下端標高(cm)	東西畦跡下端幅(cm)		
2・3	①	—	(2.45)	—	—	—	4.3~8.2	24~32	40~52	—	—	—	—	—
2・3	②	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
2・3	③	—	(1.34)	(3.99)	(3.99)	—	4.2~6.2	12~20	40~48	5.2~7.2	12~20	40~48	—	—
2・3	④	—	—	(4.32)	(4.32)	—	—	—	—	4.7~4.9	16~20	40~48	—	—
2・3	⑤	—	—	(2.22)	(2.22)	—	—	—	—	4.2~4.3	12~20	40~48	—	—
2・3	⑥	—	—	(2.00)	(2.00)	—	—	—	—	2.5~3.8	20~80	40~56	—	—
2・3	⑦	—	—	(2.18)	(2.18)	—	—	—	—	3.4	16~19	36~40	—	—



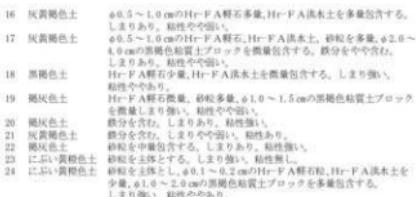
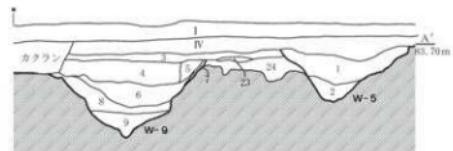
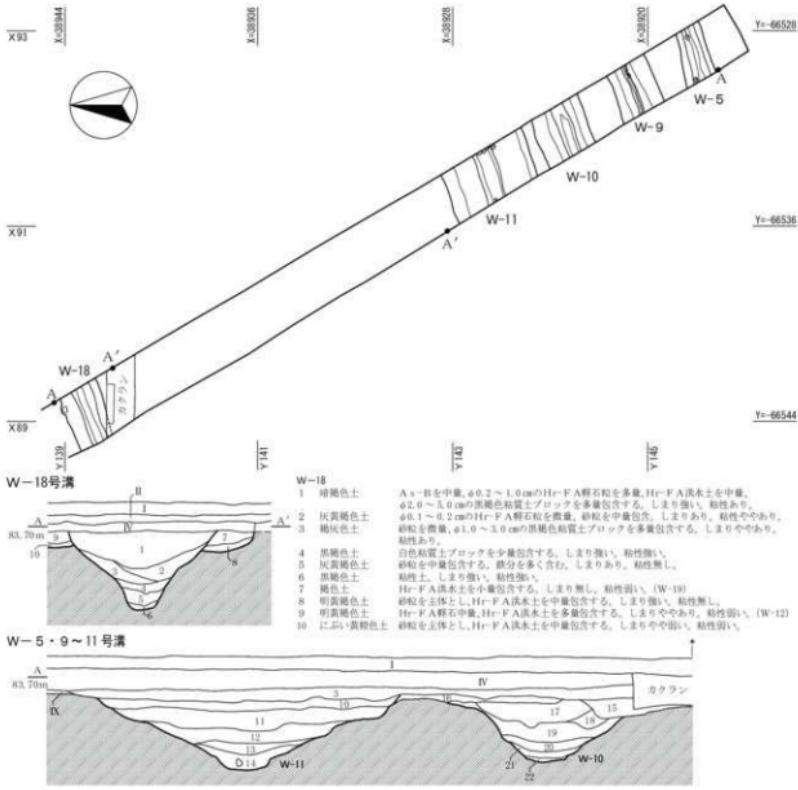
第6図 調査区全体図（平安時代末期～中世以降）



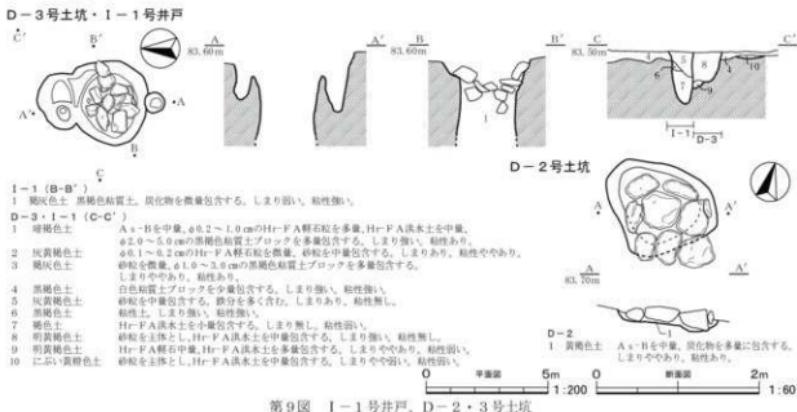
第7図 W-5・16・17号溝、D-1号土坑

W-5・9～11

- 1 緑色土 しまりやや弱い。粘性や弱い。W-5覆土。
- 2 灰黄褐色土 砂粒を少量含む。しまり無し。粘性ややあり。
- 3 黄褐色土 粘性ややあり。
- 4 灰黃褐色土 A-s-Bを多量、約0.2～0.5cmのHr-F-A軽石を多量、約0.5～1.0cmの黒褐色粘質土ブロックを微量含む。砂分をやや含む。しまり強め。粘性弱い。
- 5 にぶい黄褐色土 A-Bを少量化、約1.0cmのHr-F-A軽石を多量、砂粒を中量含む。しまりあり。粘性強い。
- 6 灰褐色土 A-Bを多量、約1.0cmのHr-F-A軽石を多量含む。砂分をやや含む。しまりあり。粘性強い。
- 7 にぶい黄褐色土 砂分をやや含む。しまり約0.2～0.3cmのHr-F-A軽石少量。砂分をやや含む。しまり弱い。粘性弱い。
- 8 灰黃褐色土 砂粒を主とし、約0.5～1.0cmのHr-F-A軽石微量。砂分を含む。しまりやや弱い。粘性やや弱い。
- 9 黒褐色土 Hr-F-A軽石を多量、約0.5～1.0cmの黒褐色粘質土ブロックを微量含む。しまり強め。粘性やや弱い。
- 10 にぶい黄褐色土 約0.5～1.0cmのHr-F-A軽石を多量。Hr-F-A軽石を少量含む。しまりあり。粘性やや弱い。
- 11 にぶい黄褐色土 Hr-F-A軽石を多量。砂分をやや含む。しまり弱い。粘性弱い。
- 12 塙褐色土 Hr-F-A軽石を多量。
- 13 灰黃褐色土 Hr-F-A軽石を多量。砂分を含む。しまり強め。粘性弱い。
- 14 緑褐色土 砂粒を主とし、砂分を含む。しまり強め。粘性弱い。
- 15 灰褐色土 約0.5～1.0cmのHr-F-A軽石を多量。Hr-F-A軽石を多量含む。しまりあり。



第8図 4区 W-5・9～11・18号溝



第9図 I-1号井戸、D-2・3号土坑

2 古墳時代～平安時代

2面目の調査で検出したHr-F A層下の遺構及び埋没土にHr-F A層を含む遺構について記述する。

1 水田跡

Hr-F A層下水田跡（第10・11図、PL. 4）

位置：3区の東西の2カ所においていずれも一部が検出された。**重複**：西側はW-7号溝に切られている。**残存状況**：東西のいずれも畦畔の痕跡が平面的に確認されるにとどまり、起伏の程度は認識できない。**地形**：北から南へ緩傾斜しており、東西方向には明瞭な傾斜はみられない。**区画**：17区画が確認された。いずれも区画の一部分であるため、区画全体の規模は不明である。**畦畔**：小畦畔のみである。下端幅は南北畦畔0.31～0.49m、東西畦畔は残存幅で0.29～0.47mを測る。**水口**：確認されなかった。**遺物**：なし。

2 溝跡

W-1号溝（第10・11図）

位置：3区南東側にて一部が検出された。**重複**：なし。**形態**：北西～南東方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は碗形状を呈する。**計測値**：主軸方位N=40°-W、検出長3.96m、上幅0.24～0.34m、確認面からの深さ0.12mを測る。**埋没状態**：主としてIX層に由来するとみられる暗褐色土が堆積している。

遺物：なし。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-2号溝（第10・11図）

位置：3区南東側にて一部が検出された。**重複**：W-3号溝と重複し、これを切っている。**形態**：北西～南東方向に走行し、底面は南東側が低い。断面形はおおむね浅い皿状を呈する。**計測値**：主軸方位N=37°-W、検出長3.23m、上幅0.64～0.92m、確認面からの深さ0.28mを測る。**埋没状態**：基本土層IX・X層に由来する灰黒褐色土、黒褐色土が堆積している。**遺物**：混入とみられる人物埴輪の美豆良が出土した。**時期**：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-3号溝（遺構：第10・11図、PL. 4）

位置：3区南東側にて一部が検出された。**重複**：W-2号溝に切られている。**形態**：北東～南西方向に走行し、

底面は北東側が低い。断面形はおおむね逆台形状を呈する。計測値：主軸方位N-48°-E、検出長2.02m、上幅0.45~0.52m、確認面からの深さ0.14~0.19mを測る。埋没状態：主として黒褐色土を含む灰黄褐色砂質土が堆積している。一部に掘り直された形跡が認められる。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-4号溝（遺構：第10・11図）

位置：3区南西側にて一部が検出された。重複：なし。形態：北東～南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむね逆台形状を呈する。計測値：主軸方位N-47°-E、検出長2.86m、上幅0.52~0.57m、確認面からの深さ0.24mを測る。埋没状態：主として黒褐色土を含む灰黄褐色砂質土が堆積している。形態と埋没状態からW-3号溝と同一の溝と推測される。遺物：土器類の細片が出土している。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-6号溝（遺構：第10・11図）

位置：3区北西側にて一部が検出された。重複：なし。形態：北東～南西方向に走行し、底面は南西側がやや低い。断面形は碗形状を呈する。計測値：主軸方位N-54°-E、検出長2.78m、上幅0.29~0.33m、確認面からの深さ0.15mを測る。埋没状態：基本土層IX層に由来するにぶい黄褐色土が堆積している。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-7号溝（遺構：第10・11図）

位置：3区中央にて一部が検出された。重複：Hr-F A層下水田跡と重複し、これを切っている。形態：東西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形はおおむね碗形状を呈する。計測値：主軸方位N-85°-W、検出長2.34m、上幅0.19~0.29m、確認面からの深さ0.08mを測る。埋没状態：基本土層IX層に由来するにぶい黄褐色土が堆積している。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-8号溝（遺構：第10・11図、PL. 4）

位置：2区南側にて一部が検出された。重複：なし。形態：おおむね東西方向に走行し、底面は東側がやや低い。断面形は逆台形状を呈する。計測値：主軸方位N-79~90°-W、検出長10.05m、上幅0.46~0.57m、確認面からの深さ0.22mを測る。埋没状態：灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が、覆土上位には混入物の少ないHr-F A層が堆積している。形態と埋没状態からW-14号溝と同一の溝と推測される。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代後期の溝と推測される。

W-12号溝（遺構：第10図）

位置：4区北側にて一部が検出された。重複：なし。なお、隣接するW-13号溝とは重複しない。形態：北西～南東方向に走行し、底面は北西側が低い。断面形は浅い皿状を呈する。計測値：主軸方位N-30°-W、検出長1.44m、上幅0.14~0.23m、確認面からの深さ0.04mを測る。埋没状態：主として基本土層IX層に由来する褐色土が堆積している。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-13号溝（遺構：第10図）

位置：4区北側にて一部が検出された。重複：なし。なお、隣接するW-12号溝とは重複しない。形態：北西～南東方向に走行し、底面は北西側がやや低い。断面形は浅い皿状を呈する。計測値：主軸方位N-38°-W、

検出長 1.79 m、上幅 0.30 ~ 0.34 m、確認面からの深さ 0.08 m を測る。埋没状態：基本土層 IX 層に由来する褐色土が堆積している。遺物：土師器の破片が出土している。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-14 号溝（遺構：第 10・11 図、P.L. 4）

位置：1 区南部にて一部が検出された。重複：なし。形態：おおむね東西方向に走行し、底面は東側が低い。断面形は逆台形状を呈する。計測値：主軸方位 N-78°-W、検出長 2.92 m、上幅 0.43 ~ 0.56 m、確認面からの深さ 0.35 m を測る。埋没状態：灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が認められ、上位は基本土層 II・IV・IX 層が搅拌された土によって切られている。形態と埋没状態から W-8 号溝と同一の溝と推測される。遺物：土師器の細片が出土している。時期：埋没状態より、古墳時代後期の溝と推測される。

W-15 号溝（遺構：第 10・11 図）

位置：1 区南側にて一部が検出された。重複：なし。形態：おおむね東西方向に走行し、底面は東側が低い。断面形はおおむね逆台形状を呈する。計測値：主軸方位 N-80°-W、検出長 2.83 m、上幅 0.28 ~ 0.36 m、確認面からの深さ 0.23 m を測る。埋没状態：灰褐色砂質土と粘質土による互層状の自然堆積が認められ、上位は基本土層 II・IV・IX 層が搅拌された土によって切られている。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-19 号溝（遺構：第 10・11 図）

位置：4 区南側にて一部が検出された。重複：W-18 号溝に切られている。形態：北東～南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は片側のみ確認でき、おおむね U 字状を呈する。計測値：主軸方位 N-59°-E、検出長 0.63 m、上幅 0.51 m、確認面からの深さ 0.27 m を測る。埋没状態：主として基本土層 IX 層に由来する褐色土が堆積している。遺物：なし。時期：埋没状態より、古墳時代～平安時代と推測される。

W-20 号溝（遺構：第 10 図）

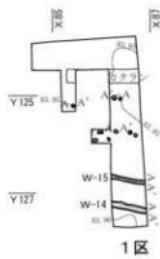
位置：4 区中央部にて一部が検出された。重複：W-11 号溝に切られている。形態：北東～南西方向に走行し、底面に高低差はみられない。断面形は碗形状を呈する。計測値：主軸方位 N-45°-E、検出長 1.39 m、上幅 0.49 ~ 0.69 m、確認面からの深さ 0.17 m を測る。埋没状態：基本土層 IX 層に由来する灰黄褐色土が堆積している。遺物：なし。時期：埋没状態より、H r - F A 降下前の溝と推測される。

3 ピット（遺構：第 10 図）

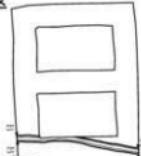
ピットは 1 区で 10 基、4 区で 24 基、合計 34 基が検出された。上面幅は 17 ~ 50 cm、深さは 6 ~ 40 cm で、形状は円形または楕円形を呈する。各ピットの配置に掘立柱建物跡を構成するような状況は認められなかった。埋没土はおおむね H r - F A ブロックを含む褐色土であり、A s - B 軽石を含まないことから、古墳時代～平安時代と推定されるが明確な時期は不明である。

4 破壊状遺構（第 10・11 図、P.L. 4）

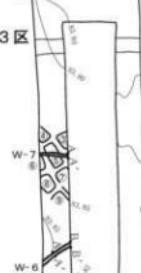
位置：4 区の南端にて一部が検出された。重複：W-5 号・9 号溝に切られている。形態：東西が畝状に盛り上がり、中央部は外側を掘り込んだ土（XI・XII 層）で埋め戻している。埋没状態：IX' 層を主体とする灰黄褐色土で埋没している。遺物：なし。時期：埋没状態から、古墳時代後期の遺構と推定される。



2区 X-39000



3区 X-38984



X-38968

X-38960

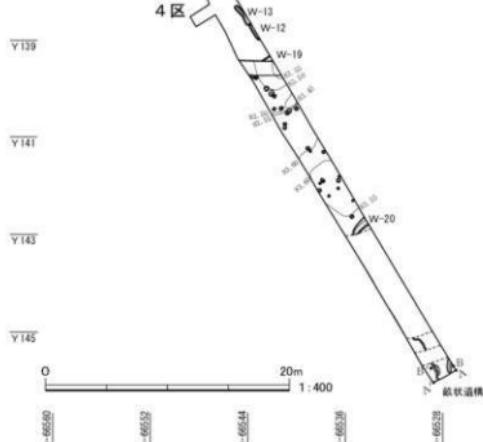
X-38952
X-38950

X-38944
X-38936

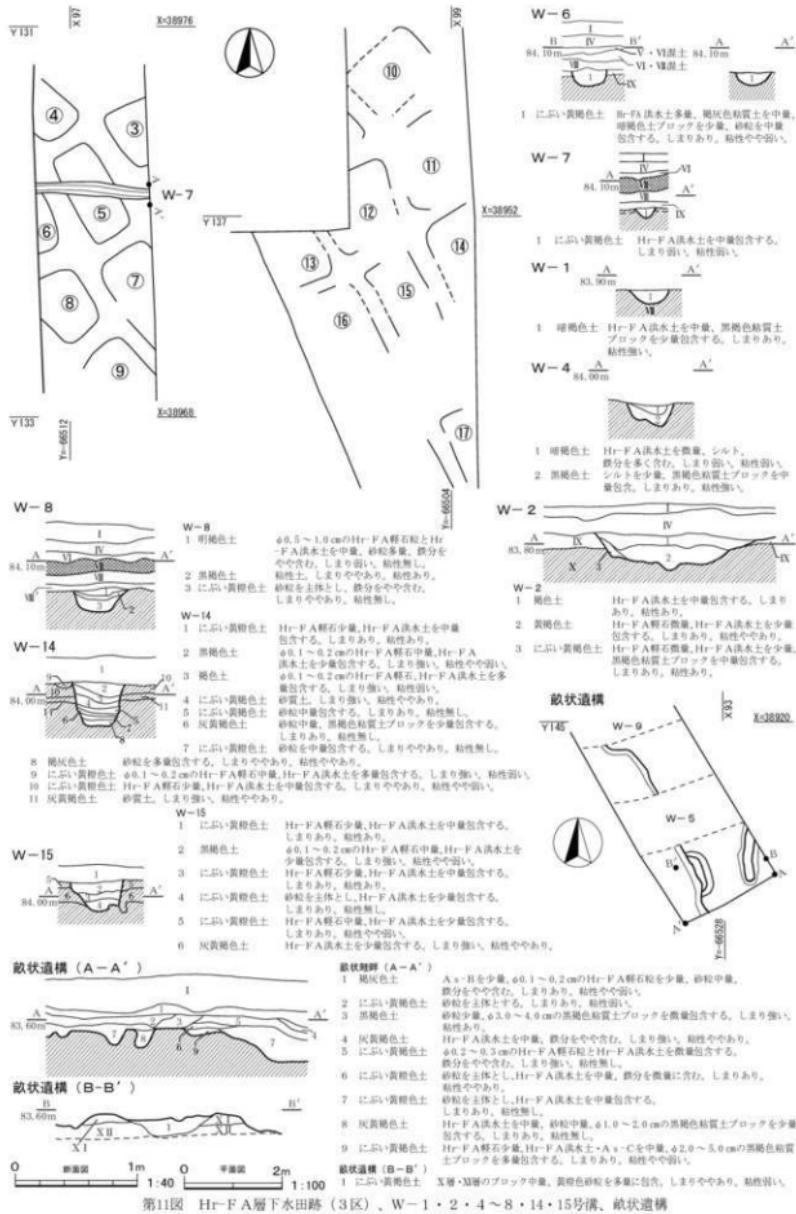
X-38928
X-38920

X-38912
W-1
W-2
W-3

X-38904
W-4



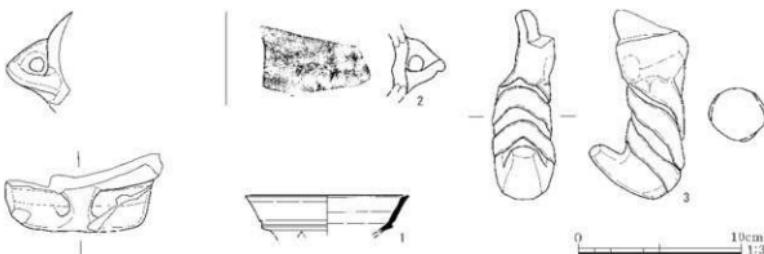
第10図 調査区全体図（古墳時代～平安時代）



第11図 Hr-F A層下水田跡（3区）、W-1・2・4～8・14・15号溝、畝状遺構

VI 出土遺物

1は須恵器の縁の口縁部片で4区のI-1号井戸、D-2・3号土坑周辺に堆積する遺物包含層から出土した。2はW-11号溝から出土した釜形土器の破片である。3はW-2号構から出土した男子人物埴輪の美豆良である。なお、朝倉・広瀬古墳群とは2kmほどの距離があり、近隣でも古墳は確認されていない。



第12図 出土遺物実測図

第3表 出土遺物観察表

	遺構名	器種	法量(cm)	①軸土 ②焼成 ③色調	成・整所作法等	備考
1	4区 遺物包含層	須恵器縁 口縁部	口径: 10.0 厚さ: 1.5	①繊維 ②堅硬 ③灰(5W6)	外面: ロクロ無形。繊維波条文の一帯が現存する。 内部: ロクロ整形。	口縁部 1/8
2	W-11	軽質陶器 釜形土器	外耳部内径: (20.4)	①細砂粒・白色粒 ②灰元灰焼成 ③灰 ④灰(5W6)	外面: 板状の「火よけ」の上部に穿孔のある把手。 内部: ヨコナギ。荷重圧痕あり。	外耳部片
3	W-2	埴輪 美豆良	長さ: 1L.5	①細砂粒・白色粒・石英 ②良好 ③橙(5TB6/S)	粘土を螺旋状に巻きつける。	左腕の美豆良

VII まとめ

朝倉工業団地遺跡群では、これまで6度にわたる発掘調査が実施してきた。これまでの調査成果をふまえつづく朝倉工業団地遺跡群No.6の調査結果を概括しておく。

今回の調査では、主に中世以降の溝跡・井戸跡・土坑、平安時代末期のA s-B層下水田跡、古墳時代のH r-F A層下水田跡、古墳時代～平安時代の溝跡等を確認した。

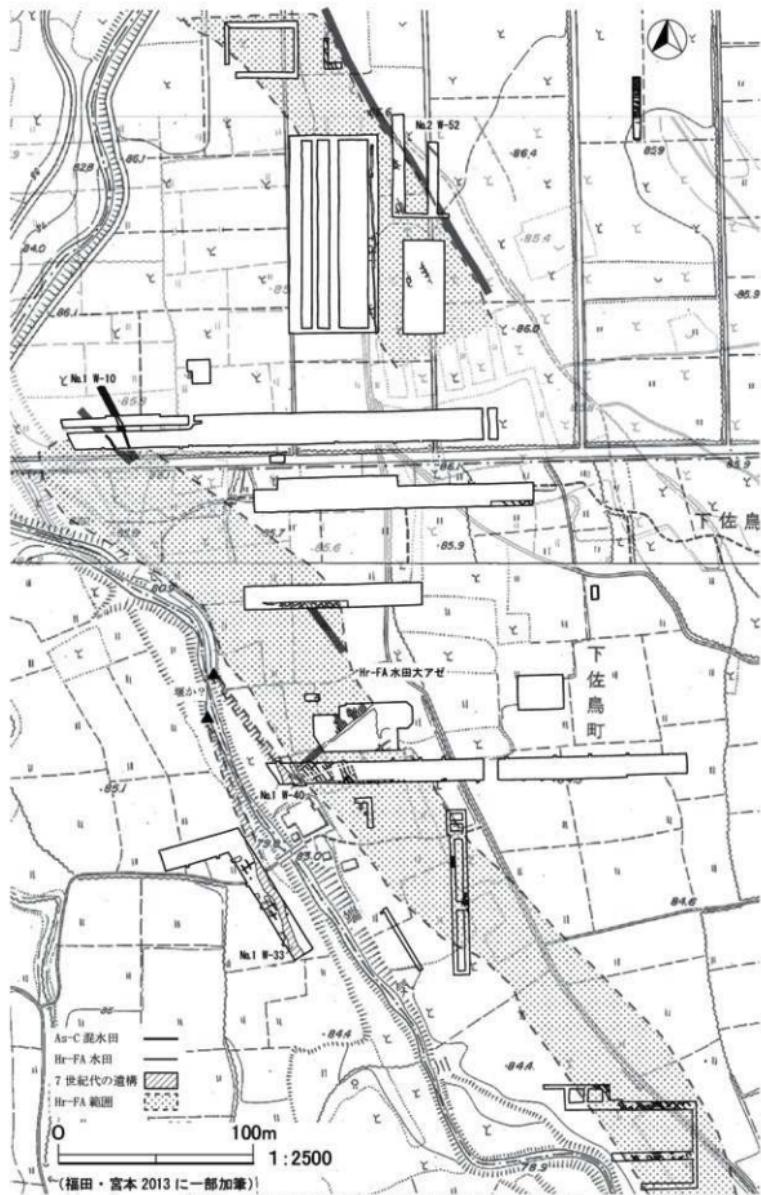
中世以降の遺構は、3・4区で大規模な堀跡(W-9～11・16・17・18)がみつかった。走行方向や規模等を比較すると、W-9とW-16、W-11とW-17は同一の堀跡である可能性が高い。このうちW-16とW-17は、ほぼ同様の主軸方向を持つコーナー部分であること、W-16とW-17の遺構の切り合い関係から、堀の区画を北側に移動して造り変えた可能性がある。これらは本遺跡群No.2で確認された環濠塗敷跡と同様の性格が想定される。4区で検出した井戸跡(I-1号井戸)や土坑(D-2・3号土坑)も屋敷跡に伴う可能性が高い。

平安時代末期のA s-B層下水田跡は、2・3区で確認された。A s-B層下水田跡は本遺跡群No.1・2・4・5の各地点で確認されており、今回の調査で南北-東西方向の条里地割に沿った水田区画はNo.6の北側まで展開していたことが分かった。

古墳時代のH r-F A層下水田跡は、3区において畦畔の痕跡のみの確認となったが、北西から南東方向の主軸に沿った区画の水田跡であることが分かった。H r-F A層下水田跡は本遺跡群No.1～6の各地点で確認されており、古墳時代の水田区画はおおよそ同様の主軸方向で広範囲に展開していたことが裏付けられた。

参考文献

- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2009 『南部拠点地区遺跡群No.1』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2010 『南部拠点地区遺跡群No.5』
- 前橋市埋蔵文化財発掘調査団 2011 『南部拠点地区遺跡群No.6』
- 前橋市教育委員会 2011 『朝倉工業団地埋蔵文化財確認調査報告書』
- 前橋市教育委員会 2012 『朝倉工業団地遺跡群No.3』
- 前橋市教育委員会 2012 『朝倉工業団地遺跡群No.2』
- 前橋市教育委員会 2013 『朝倉工業団地遺跡群No.4』
- 前橋市教育委員会 2013 『朝倉工業団地遺跡群No.5』
- 前橋市教育委員会 2013 『上佐島中原前畠遺跡』
- 前橋市教育委員会 2013 『朝倉・広瀬古墳群』



写 真 図 版



A s - B 層下水田跡 畦畔検出作業



調査地と端氣川（南西から）



調査区全景（左が北）



A s - B層下水田跡 全景 (2・3区、手前が北)



A s - B層下水田跡 区画①～④ (東から)



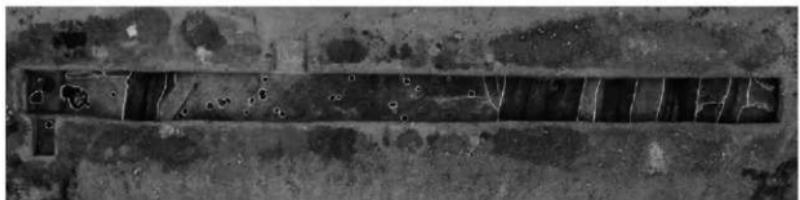
A s - B層下水田跡 区画①②間の水口 (南西から)



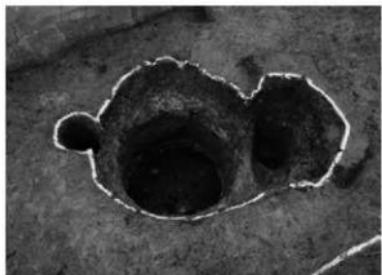
A s - B層下水田跡 畦畔2 土層断面 (西から)



A s - B層下水田跡 畦畔4 土層断面 (西から)



4区 全景（左下が北）



I-1号井戸、D-3号土坑（東から）



W-9号溝 全景（東から）



W-11号溝 全景（東から）



W-18号溝 全景（東から）



2・3区 全景（左が北）



Hr-F A層下水田跡 全景（南西から）



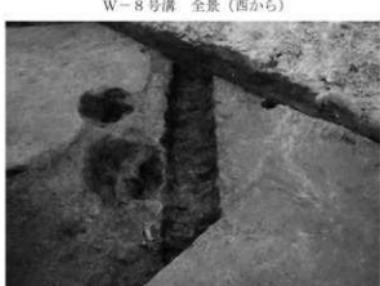
Hr-F A層下水田跡 全景（南から）



W-8号溝 全景（西から）



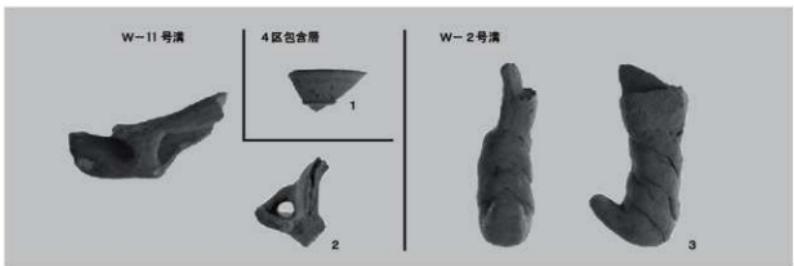
W-8号溝 土層断面 B-B' (東から)



W-3号溝 全景（西から）



舟状遺構（北から）



出土遺物

抄 錄

ふりがな	あさくらこうぎょううだんちいせきぐん なんぱーろく
書名	朝倉工業団地遺跡群No.6
副書名	恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書
巻次	
シリーズ名	
編著者名	福田貫之 小此木真理
編集機関	有限会社毛野考古学研究所 〒379-2146 群馬県前橋市公田町 1002番地1 Tel 027-265-1804
発行機関	前橋市教育委員会 〒371-0018 群馬県前橋市三俣町2-10-2 Tel 027-231-9531
発行年月日	西暦 2013年9月30日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
		市町村	遺跡番号	(世界測地系)				
朝倉工業 団地遺跡群 No.6	群馬県前橋 市下佐鳥町 1003番2	10201	00805 (24679)	36° 20' 55"	139° 05' 32"	20130520 ～ 20130614	652 m ²	倉庫建設

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
朝倉工業 団地遺跡群 No.6	生産跡	古墳時代	H r - F A層下畠跡・ 水田跡・溝跡	古墳時代前期・中期 の土器	古墳時代の畠跡・ 水田跡を検出。
		平安時代末	A s - B層下水田跡・ 溝跡		平安時代末期の水 田跡を検出。
	環濠屋敷跡か	中世以降	井戸跡・溝跡・土坑 跡	中・近世の陶磁器	

朝倉工業団地遺跡群No. 6

恵産業株式会社本社・倉庫新築工事に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

平成25年9月27日 印刷

平成25年9月30日 発行

編集／有限会社毛野考古学研究所

発行／前橋市教育委員会

群馬県前橋市三保町2-10-2

印刷／朝日印刷工業株式会社
